

## 江尾駅構内に チロル風の多目的施設、完成

愛称は  
“ちろりんハウス”に決定



完成したちろりんハウスの前で通園中の子供の国保育園児たち

### 町民の いこいの場に

江尾駅構内に建設が進められていた奥大山チロルの里多目的施設がこのたび完成しました。

江府町の玄関となるこの施設は、チロル風の建物で、正面には、大きな時計（大きさ一・五層）を添え付け、どこからでも時刻がよく分かるようになっていきます。

館内には、学習室や会議室もあり、町民皆さんの憩いの場となります。

また、ひとつ新しい町の名所ができました。（なお、会議室などの本格的な利用は、四月からの予定です）

#### 内 容

- さらに親しまれる町報づくりを… P 2
- 約束を守って、きちんと出そう不燃物… P 6
- 森林交付税の創設を… P 9
- 町のわだい… P 10
- 教育コーナー… P 12
- お知らせ… P 18
- 人の動き・元気ですヤング… P 21

# る町報づくりに

## 町報は

### 町を代表する顔

町報一号の発刊以来、二十五年の歳月を経て三〇〇号を迎えられたことに對し、深く敬意と感謝を申し上げます。

いうまでもなく、町報は町を代表する顔であり、地域の情報発信基地でもあります。

現代は、情報化時代といわれていますが、身近なところでは県はもちろん、町においては



昭和三十八年四月に町制十周年を契機に、町行政を知っていただくためにスタートした町報は、今月で、発行以来三〇〇号を迎えることになりました。

これもひとえに、町民の皆様をはじめ多くの読者に支えられてきた賜だと心から感謝申し上げます。

最初は、二ページのもので、公民館報と隔月ごとに発行していた町報が、今では平均十六ページで毎月発行し、サイ

でも行政関係広報誌をはじめ、各種団体発行の広報誌は氾濫時代とも言えます。

しかしながら、それぞれに知恵をしぼり、いかに創意工夫した立派な広報誌でも、要は読んで見てもらわなければ意味のない一片の紙切れに終わってしまいます。

広報の使命は、広く正確に迅速が基本です。これを機に表紙のみならず、要所をカラーにするなど、江府町ならではの割付で顔作りをし、町民が早く読みたい、見たいと願望する町報へ更なる発展を切に期待いたします。

(武庫 宇田川 潔 団体役員)

## 町報は私の

### 元氣のもと



町報こうふの三〇〇号発刊

おめでとうございます。毎回町内の出来事をとてわかりやすく紹介してありますので、居ながらにして町のことがと

でもよく分かります。毎回楽しみに読んでいますが、なかでも最後のページの「元氣でーす・ヤング」は特に楽しみにしています。

町内の若者のハツラツとした姿が紹介されて、読んでいただけで元氣が出てきます。これからも、元氣の出る楽しい話題を載せてほしいと思います。

(江尾郵便局 砂口芳弘)

## 町報でみつけた

### 両親の結婚



私が小学生の時、図工室にすごい前からの町報のたばがあったことを思い出します。掃除の時にそれを見つけ、パラパラめくって見ていたら、「結婚」の欄に私の父と母の名前があったのです。

そして、またパラパラめくっていくと今度は「お誕生おめでとう」か何かの欄になんと私の名前があったのです。

## HISTORY KOFU PUBLIC RELATIONS

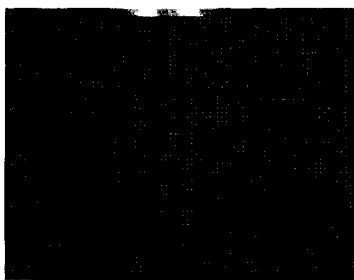
## 町報こうふの歴史

昭和38年4月創刊

### 町行政の理解を深めるため町報発行

S 38・4・20(編集・総務課) 町報十周年を機に町行政の更なる周知徹底を図るため町報を発行。二ページで発行。

公民館報と隔月で発行開始。(この年の一般会計予算九七四五万円)



▲第1号町報(S 38.4.20)

S 46・5・1(編集・総務課) 町報50号。主な内容として、久連橋完成。町内の交通事故激増。(この年の一般会計予算は三億二七〇〇万円)

# さらに親しまれ

ズもA4版となり、町内外の幅広い情報を提供しています。三〇〇号を記念して(一月

号のお知らせで町報に対する記事を募集)、町報の思い出、町報にひとことなどの声を多くの読者の方からいただきましたので、ここで紹介し、今後の町報づくりの糧にいたしたいと思います。

今後とも、町報に対して叱咤激励をよろしく願っています。(読者の名前は敬称を略してあります)

とても、驚いたのと同時になんだかうれしくなりました。その日、家に帰ってこのことを母に話すと「そげかあー」と、とてもうれしそうでした。私も何年後かに結婚して子供ができた時、こんどは、私の子供が私に「お母さんの名前があつたよ」と話してくれるような、そんな時がくれればいいなと思います。これからも、ずっと町報続けてください。応援しています。



## 町民を主役に

### してくれる町報

結構、広い江府町。カメラ片手に、東へ西へ。まめに、いろいろな記事を集めて私に情報を提供してくださる町報。いつも、感謝しています。

このたび、三〇〇号発行にあたりお礼を申し上げるチャンスを得ました。「町民一人ひとりを主役にしてくれる町報」わき役の編集の方々のご苦労に頭が下がります。ありがとうございます。子供の入学写真や年間行事などが家の歩みとして、大切に保存させていただきます。

(江尾 川端一美 会社員)

## 印象に残ったところ

### ファイルしてます



町内の事業所に勤務(単身赴任)することになった平成

五年七月以来、町報は毎号かきぎに熟読させていただきました。特に、巻頭記事は作成者の熱意がひしひしと伝わる内容で敬服するばかりです。

今年六月末で他所に転勤することになると思いますが、この三年間の町報のなかで印象に残った箇所はコピー、ファイルして、折にふれては読み返し、いつまでも江府町の想い出としたいと考えています。

(広島市 倉本峰男 会社員)

## ヤング特集は

### グループにしては



町報を毎月拝見していますが、町民の要求する情報がほぼ網羅しているように思います。日ごろ気付かない町の動きを知ることができるのもよいところだと思います。

個人的な意見としては、裏表紙の若い人の特集を個人ではなく数人のグループでやってみるのもおもしろいのではないのでしょうか。

(佐川 清水 崇 学生)

## HISTORY KOFU PUBLIC RELATIONS

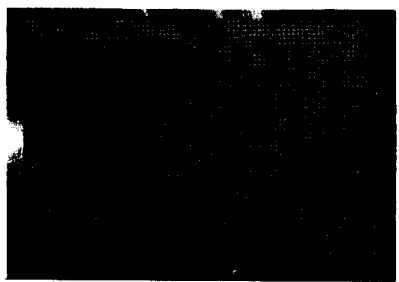
## 町報こうふの歴史

二〇〇号記念して  
各団体代表の  
座談会を開催

S52・1・15(編集・企画室)町報一〇〇号。一〇〇号を記念して各団体代表による座談会を行う。「責任ある町報として自由な町民の意見発表の場に」などの意見がでた。

この号の主な内容は、若(はが)塔(たか)第二トンネルが貫通。

この年に、江府町報表紙写真「カメ虫防除」県広報コンクールで佳作入選する。



▲「カメ虫防除」の表紙広報

S55江府町報・県広報コンクールで佳作入選する。(3)

## 町のすみずみまで

### 紹介してほしい

早いものですね。もう三〇〇号を迎えるとは。五千人たらずの人口の町ですが、それでも身近な人たちの活躍や出来事を知る大切なものです。

町民の皆様には町のすみずみまで紹介していただき、この町にできるだけ、住みついてもらうために努力していただきたい。また、町出身者の方々の近況も取材してください。一年間で町民全員の顔写真をどんな形でもかまいませんから掲載してください。今後もし応援します。がんばってください。\*できたら、求人広告も掲載してください。

(江尾貨物 白石和男)



## ともに福祉の

### 町づくりへ努力

福祉の町江府町。町報第二

号で江府町善意銀行創立「積立てて築こう明るい郷土」、県下第一号と報ぜられ、以来三十数年この善意銀行に寄せられた見舞返し、香典返しが続いて七千万円を超えました。

正に善意の積上げ、福祉の輪の拡がり町民の宝であります。社会福祉協議会では、福祉の充実をより図るため基金規程をつくりました。

三〇〇号の記念に皆様からお寄せいただきました善意、福祉の宝を報告いたし、ともに福祉の町づくりをしたいと思えます。

(町社会福祉協議会 事務局長 仲嶋勝利)

## 町報縮刷版

### 第二巻の発行を



毎月配布していただく町報を楽しく読んでいます。

奥大山の銘水の販売開始や阪神淡路大震災の記事、以前のものでは町報縮刷版を見ますと南大山大橋の完成、昭和

四十一年九月(第十九号)の皇太子殿下ご夫妻のご来町など心に残る記事が数多くあります。今後ともこれまで同様よい町報を届けていただきたく期待いたします。

また、これの取り組みには昭和四十五年一月(第四十五号)町報「江府町」についてアンケート集計表を参考にされたいらよからうかと私は思います。

この度、町報「こうふ」三〇〇号発行を記念して町報縮刷版の第二巻を作成されることをお願いいたします。

(美用 川上賢佑)

## 適切な表現に

### 一層の努力を



二月号の町報「成人者の発表」について、熟語が重なった場合には読点を打つ必要があります。また、意見発表九ページの十二行、十五行にある「頃」は当用漢字にはないと考えますので、「ころ」と書くべきです。

更に、同ページ二段・三行

## HISTORY KOFU PUBLIC RELATIONS

### 町報こうふの歴史

S 56・6・16(編集・企画室)(4) 町報一五〇号。主な内容として電源立地交付金事業による集会所などの施設紹介。(この年の一般会計予算は二六億五千万円)

S 61・7・31(編集・総務課) 町報二〇〇号。主な内容として夏秋トマトの出荷。この年に俣野川揚水発電所の運転開始。(この年の一般会計予算は一九億七千八百万円)



▲町報200号(S 61.7.31)

H 2・4(編集・総務課) 町報二二三号。この年から表紙などをカラー印刷。

H 4・5

町報二五四号。この号からB5版をA4版に変更する。

の「煩わせない」は「煩わさない」が表現として適切だと思います。二段四行の「様」は、「よう」、また三段十六行の「その時」は抽象的表現なので、「そのとき」がよいと思います。最後に、人口と世帯数の表示は、表紙の最下部に別枠を設けての表示が適当と思います。

(米子市 南波熊夫)

## この町に生まれて

### よかったです

町報を見てると、小さな町に生まれて良かったなと、よく思います。

江府町外の学校に通うようになり、中学校の同級生や小学校のころお世話になった先輩のこととか、全然わからなくなっても、小さい町ならでは、町報に時々載ってるんです。町報の一番最後にある若い人を一人ずつ取り上げるところも好きです。よく知ってる人だったり、知らなくとも、どこかで見かけたことあるなあと思えるんです。何だか、温かくて、とても

好きです。町の政治のことはもちろんだと思うけど、町に住む人たちのことをこれから、どんどん書いていってほしいと思います。

(江尾 上原香奈子 学生)

## 町報は職場



### 家庭の話題のもと

町報三〇〇号発行おめでとうございます。数々のご苦労があつたと思います。町報は毎号楽しく読ませていただいています。知人や家族の写真でも載つていようものなら職場や家庭で話の中心となります。

実は、私も三年前の一月号に顔写真とインタビューが載せられた時には、職場でも家庭でも話題となり、少し照れたのも思い出します。二十代のころは、結婚のコーナーを必ず見て、同級生の名前がなにかあつた時には、相手の人がどこの人なのか興味深くみていました。これからも、未

長く町報が発行されることを願います。

(袋原 新見道弘 江尾郵便局)

## 多角的な編集を

### 編集委員会の設置

定期発行が約束されている町報の担当者のご苦労は大変だと思います。頑張ってください。阪神大震災の記事は新聞やテレビにないよいニュースでした。

広報とは、見たい(期待)、読みたい(知りたい)という二ユース性があることが重要です。画一的な編集でなく、編集委員会などによって多角的な検討が必要と思います。

役場の各課別の記事など二ユース性をもっと知らせていただきたい。

(美用 川上卓雄 農業)



## 各部落の

### 紹介を望む

いつも楽しく拝見しています。町外勤務のため、町内の動向がどうしてもわかりにくくなっていますので、その意味においても、今後も続けていただきたいと思います。

今後の要望として、各部落の紹介を月々のせていただければ幸いです。

(佐川 清水 温 会社員)

## 庶民の味する

### 町報グーです



いつも、楽しみに読ませてもらっております。

嫁に来て、今までに読んだお役所的な内容とは違い、庶民的なあなたかみのある町報だなあと思いました。

これからも、変らず頑張ってください。

(ペンネーム ヤス)

# 約束を守って

# きちんと出そう 不燃物

可燃物の回収焼却については、二月号で詳細に紹介しました。

このたびは、不燃物について回収から処理されるまでを追って取材しました。取材日は二月二十二日、このたびの回収地域は江尾（一部地域）・久連・小江尾・佐川でした。

## 露天の不燃物には こんなことがある

不燃物の回収車は、最初に久連集落から作業を始めました。青空がひろがる好天となったこの日は、朝方かなり冷え込んだ模様で路面は凍結していました。露天に出ている

不燃物には昨夜からの雪が降り積りガチガチに凍っています。

「天気がよくなり、気温が上がると雪がとけ不燃物を入れるとあるダンボールがぬれ、積込む時にばらけてしまい、なかの不燃物が出て、大変危険です」と慎重に作業をしながら語る作業員の空場俊介さん。露天に出してある不燃物の場合はこのようなことも起こ

ります。今後、対策を考えなければならないようです。

順調に作業が進むなかで、時折使い古したストーブがありました。

## ストーブには

## まだ残っている

## 灯油がある

ストーブのなかにある灯油

タンクの油は確かにぬき取ってありますが、ストーブ本体に残っているものがありました。

「ストーブを出す時は、ストーブのなかに油が残っている場合がありますので、一度空炊きをして、それから、不燃物として出してください」と随行した環境整備課の職員は話していました。

ストーブを回収車に積み込



▲不燃物を分別する作業員の皆さん（岸本中間処理場）



▲次々と不燃物を積み込む作業員の皆さん(久連)

んでから、「今は、ストーブも様々な型があり、自動点火装置として乾電池が入っています。このなかにも、ありません」と二個の乾電池を取り出しました。

乾電池はもちろん、不燃物としては出すことはできませんので、所定の場所にある乾電池専用缶に入れていただきます。

## 乾電池の処分は

### 北海道で

ところで、この乾電池はどこで処分されるのでしょうか。担当課にたずねて驚きました。この乾電池のほとんどが北



▲ストーブのなかから出た乾電池

海道まで輸送され、民間業者の手によって処分されるそうです。

何故このような方法が取られるようになったのでしょうか。

それは、乾電池のなかに含まれる水銀がごみ処理によって大気中に放出され、環境汚染が起これるとの社会的な問題が取りざたされるようになったからです。

そこで、昭和六十年に厚生省生活環境審議会適正処理専門委員会が「事業者において乾電池中の水銀含有量の低減化などの措置を講じ(中略)広域のかつ共同で処理すること」という報告が出され、昭和六十一年二月に「使用済み乾電池の広域回収、処理計画」が

発表されました。

一自治体のみでの乾電池の処分は負担が多く、現在では全国の多くの自治体がこのシ

ステムによって乾電池を処理しています。(ちなみに、平成六年度に処分された乾電池の量は四四四一トンです)

回収できないものワースト3

# バッテリー・消火器・ガスボンベ

回収車は久連、本町五丁目、小江尾そして佐川集落へと進みました。

佐川のある集積所でポリ缶のなかに、灰がいっぱい詰まっているものが何個かありました。

なかを調べてみると、建築廃材と思われるものが灰の中から出てきました。実に巧妙なやり方で出していました。



▲缶のなかに入っていた建築廃材

(この件に関しては、今後対策を講じることになりました)

## スプレーなどには必ず穴を開けて

そして、回収車にいったいになった不燃物は運搬中に落ちないようにホロをかけ、中間処理場のある岸本町へと向かいました。

処理場に到着後、不燃物は即座に受入れホッパに移されました。

ここで、回収作業を行っている皆さんに最近の不燃物の傾向についてたずねてみました。

「特に、回収できないものの中に多く見られるのが、パ